

特集 美唄の炭鉱の歴史



かつて美唄には大小いくつもの炭鉱があり、全国でも有数の「石炭のまち」として栄えました。しかし、その歴史に触れる機会はありません。今回は、私が所属する旧東明駅保存会の会員がまとめた資料などを参考に、石炭を運ぶために敷設された鉄道路線や写真などで炭鉱の歴史の一端を紹介します。

三菱美唄炭鉱選炭場 (大正10年)

三菱美唄炭鉱は三菱の石炭部門の北海道における拠点として生産量を伸ばしました。質の良い石炭は、ボイラー用や家庭用として利用され、最盛期には年間約180万トンの出炭量を誇りました。



三井美唄炭鉱住宅街大通り付近 (昭和16年)

昭和6年から8年にかけて三井美唄炭鉱があった山奥から鉱業施設や住宅街・小学校・郵便局など、職住全ての拠点を現南美唄町の広大な扇状丘陵地に移転。整然とした住宅で、各戸には花畑もあり「日本一きれいな炭鉱住宅街だ」と言われていました。

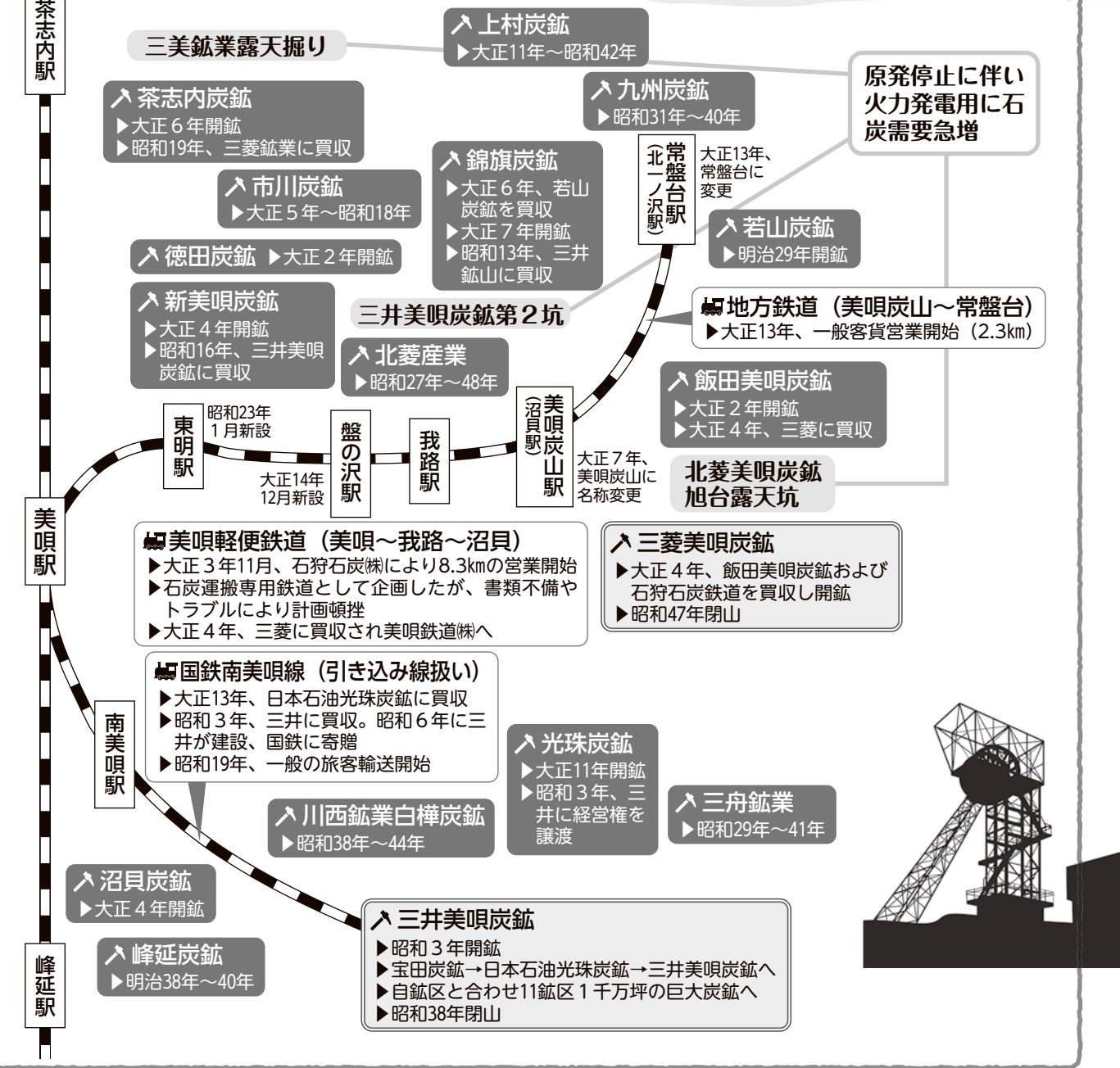


美唄鉄道さようなら列車 (昭和47年)

大正3年11月5日、石狩石炭株式会社によって美唄軽便鉄道（地方鉄道）が開業され、翌4年10月、三菱合資会社がこれを買収し、美唄鉄道株式会社が発足しました。昭和47年三菱美唄炭鉱閉山まで、石炭輸送と東美唄方面3万人を超える住民の足として大きな役割を果たしました。



美唄の炭鉱マップ



このページは私が企画・編集しました

市民編集委員 三好昇

美唄の一時代を築いた貴重な宝でもあった「炭鉱」の歴史について多くの皆さんに知っていただきたいと思い、委員に応募しました。将来厳しい時代を迎えるだろうと想像できる美唄において、貴重なヒストリーを今の子どもたちが大人になって、自分たちの子へ伝えるための一つの参考になれば幸いです。なお、編集に関しては、専門家のご意見をいただいたものではありませんのでご了承ください。

美唄の発展と炭鉱の変遷

昭和23年1月 (1948)	美唄鉄道「東明駅」新設
昭和25年4月 (1950)	市制施行により美唄市に
昭和31年4月 (1956)	1万7,139世帯、9万2,150人、人口のピークを記録
昭和35年頃 (1960頃)	石油エネルギーへの転換
昭和38年7月 (1963)	三井美唄炭鉱閉山
昭和47年4月 (1972)	三菱美唄炭鉱閉山、同年5月美唄鉄道廃止
昭和48年8月 (1973)	北菱我路炭鉱閉山 (市内の全炭鉱閉山)
平成2年 (1990)	炭鉱メモリアル公園の豎坑巻き上げ機2基、市に寄贈
明治7年 (1874)	ライマン調査隊ビバイ・サンケビバイ炭田測量調査
明治9年5月 (1876)	ライマンの調査による「日本蝦夷地地質要略之図」発行、ビバイ煤田(炭田)登場
明治20年8月 (1887)	樺戸集治監により樺戸道路完成(現在の道道峰延月形線)
明治23年5月 (1890)	沼貝村誕生
大正2年11月 (1913)	飯田美唄炭鉱開坑
大正4年4月 (1915)	三菱合資会社が飯田炭鉱を引き継ぎ、同年10月三菱美唄炭鉱開坑(以後、中小炭鉱続々開坑)
大正14年6月 (1925)	美唄鉄道株式会社が営業を開始
昭和3年8月 (1928)	町制施行により沼貝町に、翌年美唄町に改称
昭和19年 (1944)	三井美唄炭鉱閉業
昭和19年 (1944)	出炭量253万トン超え、同年国内炭鉱別出炭量で三菱美唄が4位、三井美唄が9位(同一市町村で10位以内)に2つの炭鉱が入ったのは美唄町のみ

問合せ 広報情報係 ☎63-01113